

同時代史への視角

期待にたがわぬ感銘を覚えた
ミュージカル「李香蘭」



中嶋嶺雄

なかじま みねお 一九三六年生
まれ。東京大学大学院国際関係論
課程卒。東京外国語大学教授。著書
に「北京烈烈」「現代中国論」「中
の戦略・日本の選択」など多数。

感銘を覚えた三時間

去る一月二十七日、私は青山劇場で上演された劇団四季のオリジナル・ミュージカル「李香蘭」（企画・構成・演出——浅利慶太）を、その千秋楽に観劇することができた。

様々な話題を呼んでいたミュージカルであったし、浅利慶太氏からも、是非観てほしいとお招きいただいたものであった。

もとより、中国研究を専門とする私自身にとっても、様々な意味で関心を抱いていた公演であったが、期待にたがわぬ感銘を覚えて、三時間という上演時間があつという間に過ぎていった。

まさに一世を風靡した「李香蘭」だと言っても、今の若

い世代には馴染みの薄い名前であろうし、ご本人の山口淑子さんは実在であるばかりか、現職の参議院議員（自民党）として活躍中である。

このような主人公を激動の昭和史のなかに投じて、日中関係史を舞台にミュージカルを上演するということ自体、大変刺激的であるばかりか、ある意味では「危険な冒険」なのだが、それが圧倒的な迫力で感動的に達成されていたように思う。

原作『李香蘭—私の半生』（新潮社）の共著者・藤原作弥氏は、その著『満州、少国民の戦記』（新潮社）によってもわかるように、自ら幼少時の満州体験を有する信頼できるルポ・ライターなので、ある程度は安心していただが、今回のミュージカルは、浅利慶太という個性的な芸術家が一度は挑戦し、乗り越えるべき私たちの同時代史的「罪業」を、薄っぺらな贖罪感やノスタルジーにおいてでなく、氏自身の歴史認識とロマンのなかで超克した作品だと言えよう。

野村玲子さん扮する李香蘭の生涯をどのように描くかにも興味があつたが、このミュージカルに「語り」として登場する「東洋のマタハリ」川島芳子を保坂知寿さんがどのように演ずるかにも、私は関心を抱いていた。「ラスト・エンペラー」の溥儀の性格がうまく表現され得るかにも興味があつた。

それらが、すべて見事に役割分担され、それぞれの人間

'91潮流

性の深部が浅利氏の解釈と構成力のなかで調和して、日中関係史の原点と、その時代に息づいた主人公たちの夢やドラマの傷痕、そして、政治やイデオロギーの太刀によっていかに断罪されても、今日なお照射せざるを得ない光と陰にも十分目配りされていたところに、高い評価が与えられよう。

芸術的説得力こそ

このミュージカルには、冒頭から、川島芳子が馬で通ったという松本高女やその養父・川島浪速のことが出てくるが、私はかねがね、自分が中国研究を専門にしていること以外に、次の二点からして、川島浪速という人物にも強い関心を抱いてきた。

その一つは、私自身、松本市出身であること、二つは川島浪速が私の勤務する東京外語大の前身、旧東京外語の支那語科に在籍した異才であったことである。もとより、清朝の復辟や満蒙独立運動に生涯をかけた川島浪速は、今日の歴史評価のうえで否定さるべき人物として語られているけれど、その激しくもユニークな個性にはやはり注目せざるを得ない。

そうした人物であったがゆえに、彼は肅親王（芳子の実父）の心をすっかりとらえ、台湾総督時代の乃木希典にあれば信頼されたばかりか、友人では旧外語露語科同窓生の長谷川辰之助（二葉亭四迷）や戦前のおが国中国語学界

の大先達で外語同期の宮島大八らに大きな影響を与え得たのであった。

川島浪速は中国語が実に堪能で、一九〇〇年の義和団事件に発端する八か国連合軍の北京進攻（北清事変）に際しては、その中国語を駆使して清軍を紫禁城内から撤退させたことが、ついにドイツ軍の紫禁城攻撃を思いとどまらせ、この全人類的文化遺産が灰燼に帰すことを防いだのであった。

こうしたエピソードを知る中国人もいまや殆どいないけれど、日中間の近現代史には、なお論ずべき問題が数多く残されていると言えよう。

今回のミュージカル「李香蘭」を、「現代史の勉強会」「昭和史のおさらい」など見做す批評も一部に見られたが、そうした批判を十分にはねかえす芸術的説得力こそ、今回の上演の成功のカギであったと思う。

この三月下旬からは日生劇場で続演されることなので、日本の若い世代また教育関係者に是非推奨したい。



教育新時代をグローバルに読む総合誌

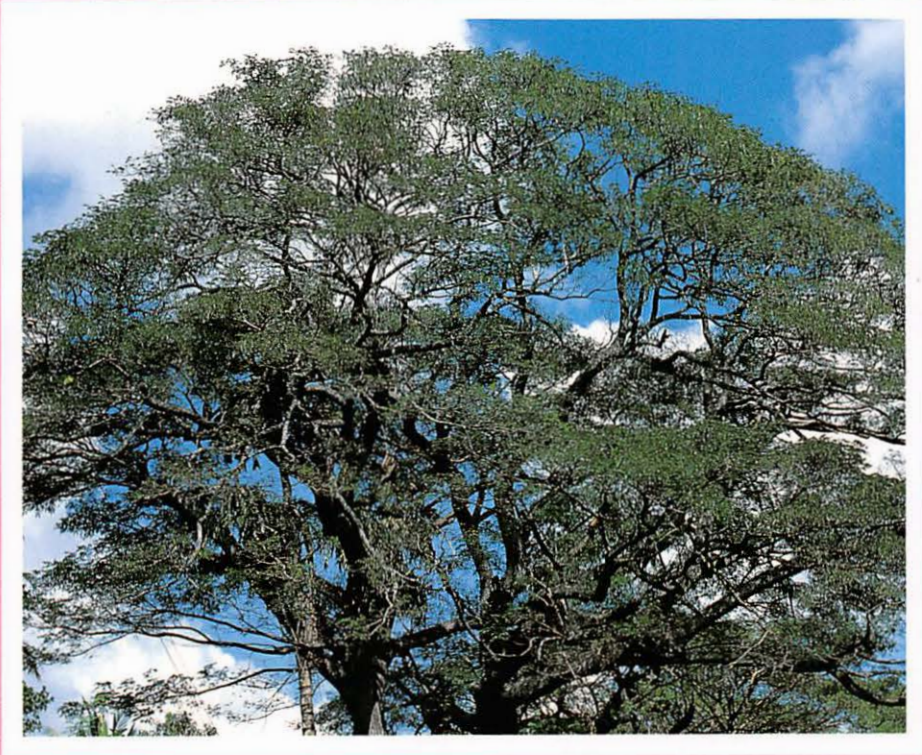
総合教育技術



特別企画

<文部省教科調査官執筆>

新教育課程への移行—ここが今年度のポイントだ



特集

気がかりな子どもにこの指導

- 子どもが見える教師・見えない教師
- 全校で取り組む生徒指導
- 気がかりな子どもをどう指導するか
- 児童理解を深める学級担任の日課表ほか

●話題の連載●

永井道雄の“わが師・わが友・わが人生” 実践的授業論
事例別／生徒指導のすすめ方 生きた人間関係学12講

速報／「観点別学習状況」が基本に—文部省が指導要録改訂の通知

5

1991

保存版 / ●特別付録●
子どもの心を育てる
(年間お話集)